

総務常任委員会

＊視察日：平成24年7月4日～6日

＊視察先：東京都国分寺市 神奈川県平塚市 神奈川県三浦市

【国分寺市】協働のまちづくりにおける提案型協働事業制度について

市民活動団体の自由な発想を市政運営に生かすこと及び市民自治の推進を目的として、平成19年に提案型協働事業基本方針を策定し、平成20年度から3年間試行という形で提案型協働事業を実施しました。事業の成果として、市民活動団体のアイデア等を生かし、市民視点による行政サービスを行うことにより、地域の問題解決につながる事業が行われたことや、マンパワーにより単独では実施できない事業が可能になったことなどが挙げられる一方で、協働事業についての理解や



国分寺市での視察

合意形成の協議が不十分のため協働事業のメリットを十分生かされていなかったり、事業数や実施団体数の増加がみられないなどの問題点もあるとのことでした。

【平塚市】協働のまちづくりにおける提案型協働事業制度について

平成18年に制定された自治基本条例を具現化し、協働による地域課題の解決を図ることを目的として、市民提案型協働事業制度を実施しました。事業の成果として、市民活動団体と行政がそれぞれの特性を生かし、単独で実施するよりもより効果的な事業が行われたことなどが挙げられました。問題点としては、市民活動団体の団体の向上が図られないことや応募件数の減少などが挙げられましたが、応募件数については、件数を増やすということより継続していくことに重点をおいており、質の高い事業を継続していくことが大事だと考えているとのことでした。

【三浦市】土地開発公社解散後の財産運用について

三浦市土地開発公社は、昭和37年に設立され都市計画道路用地や小中学校用地、公園用地の取得、埋め立て造成等の業務を行ってきた。

した。平成21年3月の第1回市議会定例会における施政方針として、「第3セクター等改革推進債を活用して、土地開発公社の解散に取組むこと」を表明し、平成22年9月、借入額108億5千万円の起債発行を受けると同時に、県知事から解散認可を受け、土地開発公社は解散することとなりました。

解散に伴い市に譲渡された土地の多くは、販売を目的とした埋め立て造成地とすることができたが、水産関係の経済は依然として厳しい状況が続いているため、企業に対する個別訪問などの取り組みを積極的に行ってはいるものの、成果が得られるまでにはなっていないとのことでした。そのため、販売だけではなく、賃貸にも対応するなど、時代のニーズに即した柔軟な対応が求められているとのことでした。

産業経済常任委員会

＊視察日：平成24年7月4日～6日

＊視察先：山梨県大月市 山梨県北杜市 長野県佐久市

【大月市】観光振興計画について

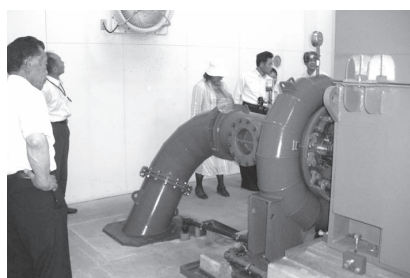
富士山の眺めが日本一美しい街を情報発信するため、

大月市内の山頂から望む富士山を「秀麗富嶽十二景」として19の山を指定し、観光マップやホームページでPRするとともに、踏破ラリーや写真コンテストなども行われておりました。また、地域産業の振興と市の活性化を図るため、「おおつき一駅逸品」特産運動を展開し、市内にあるJRの駅ごとに食品や工芸品、農林水産物、史跡・名所・伝統文化などを逸品として認定し、現在では100品目を特産物として選定し、PRしておりました。特産物等が数多く存在する奥州市でもこの事例を取り入れ、「各区の逸品」として市内外に発信することで観光産業の活性化を図ることは可能であり、非常に期待できるものと感じました。

【北杜市】小水力発電を中心としたクリーンエネルギーの取り組みについて

市の大部分を山間部が占めるという地形を活かし、効率的な水力発電を実施している事例を確認しました。視察した村山六ヶ村堰水力発電所では、取水地点から発電所までの距離約1300mのうちに85mの落差を設け、小水量で発電を行っておりました。ここでは小規模な施設ながら、年間約220万キロワットの電力を発

電しており、これは一般家庭に換算すると約600軒分の電気を補うことが出来るそうです。今後も積極的な小水力発電の導入を目論み、市内26箇所まで小水力発電実現可能性調査を継続しております。



北杜市村山六ヶ村堰水力発電施設

【佐久市】農業振興ビジョンについて

「佐久市農業振興ビジョン」では、「自然の恵み豊かな佐久の活力と未来ある農業づくり」を基本目標とし、農業振興の4つの柱として「農業」、「農地」、「食料」、「農村」を設け、各施策を計画的に実践していくことにより、農畜産物供給基地の確立を図り、自給率向上につなげることを目指しております。主な取り組み事例では、農業アシスタントの育成に力を入れており、毎年アシスタント講習会を開催し、希望する方は誰でも基礎知識や基礎技術を習得できる環

境を整備していました。育成された人材は、高齢化や兼業化で労働力不足が進む農業者のところへ派遣され、労働力を補完するシステムが構築されていることを認識しました。また、グリーン・ツーリズムによって佐久市を訪れる対象者は、大人や家族、企業が多いという実態がありました。

建設環境常任委員会

＊視察日：平成24年7月24日～26日

＊視察先：福島県白河市 茨城県龍ケ崎市 千葉県千葉市

【白河市】白河中央スマーティンターチェンジの設置経過と周辺整備

平成19年、白河中央スマートインターチェンジ設置に向けた検討会を開催し準備を進め、平成21年8月8日に開通する運びとなりました。インターチェンジ周辺には、白河厚生病院や白河病院が集積しており、県南地域保健医療圏としての役割を担い、高速道路を利用した医療機関同士のスムーズな連携が行われるなど、地域住民が安心して暮らせる環境が整備されました。また、周辺には工業団地が点在しており、インターチェンジの整備により、企業立地が進み産業の活性化と